

No. 35	昭和49年12月25日発行 編集者：後藤光男 ☎592
ねじればね	大阪府高石市高師浜2丁目4-4 電話 堺(0722)61局5374番
Dec, 1974	日本甲虫学会 ☎658 神戸市東灘区御影町天神山46

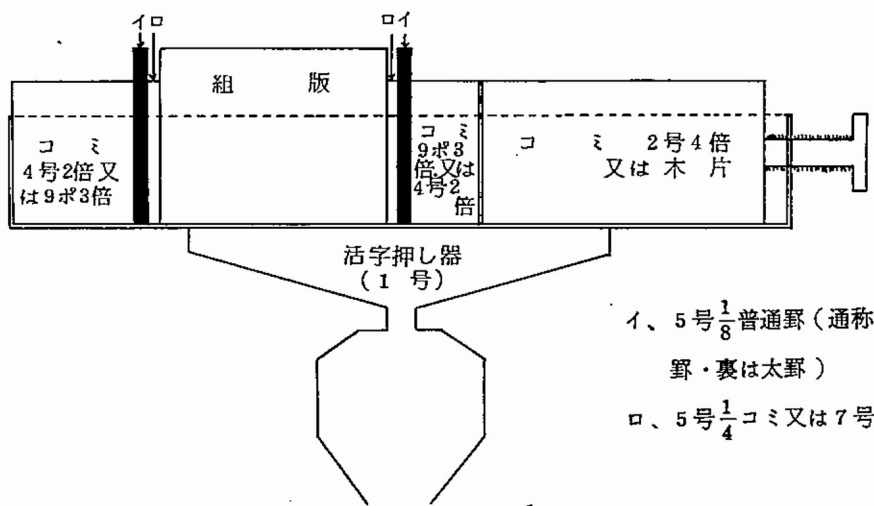
ラベル印刷のあれこれ 追補(1)

後藤光男

本誌27~30号(1969-1970年)にデータラベルの印刷を中心としていろいろ書き留めたが、今日まで10余人の方々から私が紹介した4.5ポイント活字の依頼を受けて、それぞれ整えさせていただき利用ねがっている。私が最初に整えた1969年2月頃と比べると価格も順次値上げされて、昨今では当初の3倍以上となっており、今後も高率の値上りが予測される。その後の知見を中心として追補の表題のもとに書き続けてみたい。

a

手押の場合各自の癖が活字押し器を通して端的に現われる。どうしても上下と左右のどちらかに力がかかるため、組版の四隅が中央面より磨耗の度がはげしい。これをできるだけ防ぐには四隅にかかる力の配分を分散させる以外に方法がない。それには野を使う。図示すると第1図となり、組版の四隅にかかる力はイのトタンに支えられて、磨耗も少なく印刷も鮮明である。















- イ、5号 $\frac{1}{8}$ 普通野(通称トタン、表は細野・裏は太野)
- ロ、5号 $\frac{1}{4}$ コミ又は7号5倍コミを使用

b

データラベルの四囲を枠で囲むときは罫ものを使う。罫ものは数種類あって用途によって使い分けられる。

罫 の 種 類

表 け い		子 持 け い	
裏 け い		双 柱 け い	
表リダーけい		三 筋 け い	
裏リダーけい		カ ス ミ ケ イ	
表波線けい		無 双	
裏波線けい		花 け い	

普通罫の表は細罫、裏は太罫とよばれ、太罫よりやや細いものに7分罫がある。

c

枠入のデータラベルを印刷するには罫ものを使うが、表罫を用いると細線の、裏罫を用うれば太線の枠付データラベルが印刷できる。しかし裏罫を使うと線が太すぎるので、データラベルは7分罫を使う方が刷上りがやわらかい感じである。罫ものはカッターカラシヤ缺で好みの長さに切断できるが切断端が曲ることが多いから、罫ものの切断は専門家に依頼した方が刷上りが美しい。

d

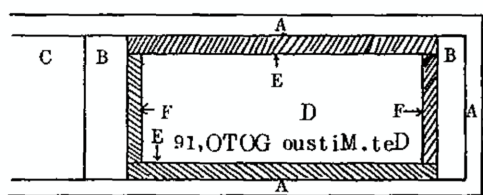
自分のデータラベルを枠付にするとすれば採集者名の長さが基準となり、採集日付もたいてい場合は枠内に納まる。しかし採集地名は必ずしも採集者名より短いとは限らないし、細い書体に太枠ではあまり調和がなく細枠では枠取の強調が弱くなるので、データラベルの枠付はあまり感じできない。只太字に太枠は例外で6ポイント角ゴシックのような太くて角張る書体に7分罫の枠取は仲々美しいデータラベルである。

ラベルの枠付はデータラベルよりむしろ同定やHOST、♂・♀、属・種のラベルに用いられることが多く、同定ラベルに例をとって版組について述べて見よう。

Det. Mitsuo Goto, 19 を細(又は太)枠で囲む場合、私はつぎのようにする。Dから9まで4.5ポイント活字では18mmとなる。Dの左1mm、9の右4mm、の余白をとった枠取は横線の罫として23mm、のもの2枚が必要であり、縦線の罫として12mm、を2枚用意する。

活字押し器はネジ部を左に右から7号5倍(又は5号 $\frac{1}{4}$ ・9ポ3倍)コミを入れて、Det. Mitsuo Goto, 19 と版組し—先ず固定する。4.5ポイント活字は書体が活字面一杯であるから細罫では活字の下端とに幾分余白ができるが、太罫では線の上端が活字の書体下部に接着するから余白ができない。これでは印刷面で均衡がとれないので余白をとる必要がある。これには長さ21mmで高さ20mmに切断した罫を用い、必要以上に余白をとりたい時は3~4枚同じ罫の切断片を用意しておく。

最初に活字の下面に切断片を、更にその下に横線罫を入れる。ついで右と左の縦線罫を横線罫の左右両端にかかると組み込み、最後に上の横線罫を両縦線にかぶせて固定する。最初固定した組版でも罫を入れたため組版と罫の接着面に隙ができていますので、先述のH項(本誌p28, pp. 1-2, 1969)の方法によって完全に固定すると枠取りラベルの組版は完成する。組版を上から見るとつぎのようである。(第2図)



- A : 活字押し器 B : コミ (好みによって4号2倍・9ポ3倍・7号4倍・5号 $\frac{1}{4}$ を使用)
 C : コミ (2号4倍又は木片) D : 組版
 E : 横線罫 F : 縦線罫

e

ラベル印刷用紙を小片に切断させる時参考になると思われるから、用紙と封書のJIS規格表を掲げておく。

JIS規格用紙仕上寸法

A列 mm	番号	B列 mm
841×1189	0	1030×1456
594×841	1	728×1030
420×594	2	515×728
297×420	3	364×515
210×297	4	257×364
148×210	5	182×257
105×148	6	128×182
74×105	7	91×128
52×74	8	64×91
37×52	9	45×64
26×37	10	32×45
18×26	11	22×32
13×18	12	16×22

JIS規格封書寸法

規格	寸法 mm
角型2号	240×332
" 3号	216×277
" 4号	197×267
" 5号	190×240
" 6号	162×229
" 7号	142×205
" 8号	119×197
長型3号	120×235
" 4号	90×205
洋型2号	114×162
" 3号	98×148
" 4号	105×235
" 5号	95×217
" 6号	98×190

定形郵便物制限寸法

(長さ140~235mm
 巾120mm
 厚さ10mm
 重さ50gまで)

新 入 会 員



住 所 変 更





死 去



退 会



標本用ラベル・データラベル用極小活字・甲虫専用台紙・名札差を
用意しております。 後藤までご照会下されば見本をお送りします。

・標本用ラベル 永年の経験からドイツ型・インローガラス蓋・甲虫専用等各標本箱と標本によくマッチするラベルを各種取揃えています。ご照会下されば現物見本をお送りします。

- A 属種兼用(タイプライター印書可) 2 × 4.5 cm 枠入り中に線なし
- B " (") 2 × 4.5 cm 枠入り下線より0.5 cm上に3.5 cmの横線入
- A・Bいずれも 1枚 5片 1枚につき7円
- C 属用(科・族共用) 1.2 × 4 cm 1枚 8片 " 7円
- D 種用 1.2 × 4 cm 1枚 8片 " 7円
- E 属用(科・族共用) 1.0 × 3.5 cm 1枚10片 " 5円
- F 種用 1.0 × 3.5 cm 1枚10片 " 5円

※A・B・C・Dは大型標本箱用で甲虫に限らず、蝶・蛾・トンボの標本にもよくマッチします。C・Dは中・小型標本箱にも兼用できます。

E・Fは志賀製甲虫専用インロー型標本箱(大・小)用です。

G	♂♀用	0.3 × 0.9 cm	1枚♂♀各14片	1枚につき4円
G'	♂♀用 やや大形	0.5 × 1.5 cm	1枚♂♀各9片	" 4円
H	H O S T用	0.6 × 1.4 cm	1枚8片	" 4円
H'	H O S T用 やや大形	1.0 × 2.2 cm	1枚10片	" 5円
I	番号用	0.5 × 1.5 cm	1枚16片	" 4円
I'	番号用 やや大形		1枚16片	" 5円

※同定依頼等に使用便なるよう2片づつ間隔をあけております

J	採集高度表示用		1枚17片	" 4円
K	灯火採集表示用		1枚17片	" 4円
L	トラップ採集表示用		1枚17片	" 4円
M	ベルレーゼ採集表示用		1枚17片	" 4円
N	樹皮下採集表示用		1枚17片	" 4円

※J-Nは0.3 × 1.1の2重枠中に表示用語を印刷したラベルです。

O	任意表示用(二重線枠のみ、中は空白)		1枚11片	" 4円
P	灯火採集・高度併用		1枚24片	" 10円
Q	台湾産標本用(二重線枠内にFORMOSA印刷)		1枚50片	" 15円
R	属種組合せ(C2片・D5片入り)		1枚7片	" 7円

以上は既製のラベルですが、各自のお好みによる特殊ラベル・標本台帳等の印刷のお手助をします。遠慮なくご相談下さい。

・データラベル用種小活字 遠征等によって多数の標本を採集した時のラベル書きはとても面倒で根気のいる仕事です。兵庫県宝塚滝ヶ平、26.V.1974、後藤光男採集をローマ字化して4段組で0.6 × 1.5 cmにおさまる4.5ポイント活字を取揃えることができます。標準一揃いセットになっています。活字は標準本数に依頼者氏名のローマ字化、大文字・小文字の使用好み・Coll. Leg. leg. Lgt. lgt. や採集月のMayかVの使い分け等をアレンジして上積みします。セットの基準内容はつぎのとおりです。

活字	大文字：1文字30本	A、E、I、O、U、
	" 20本	C、D、H、L、M、N、R、S、T、

- 1文字15本 B、E、G、J、K、P、W、Y、
 " 10本 Q、V、X、Z、&
- 小文字： " 50本 a、
 " 30本 e、i、o、u、
 " 20本 c、d、g、h、l、m、n、r、s、t、
 " 15本 b、f、j、k、p、w、y、
 " 10本 q、v、x、z、
- 数字： " 30本 0、1、5、9、
 " 20本 2、3、4、6、7、8、
- 記号： " 40本 .、,、
 20本 一、
 10本 :、;、'、?、(、)、
 5本 &、♀ (これのみ6ポイント)
- 付属 コミ： 2号4倍 2ケ、 4号2倍 8ケ、 9ボ3倍 4ケ、
 7号5倍 4ケ、 5号 $\frac{1}{4}$ 4ケ、 5号 $\frac{1}{8}$ 野 4枚、
 4.5ボ全角 40本、 $\frac{1}{2}$ 40本、 $\frac{1}{3}$ 40本、(プラスチックケース入)
- " その他： 欧文活字ケース 1枚、 活字押し器(1号4.5ボ5段組) 2本、
 印刷インク(プラスチックケース入) 100g、 ローラー(萬古製) 1枚、
 ガラス版 1枚、

上記セットは送料別で15,000円となり、これに活字のアレンジ分が加算されます。やや高額ですがラベルの手書の手間が省けます。少し刷れると大変美しいラベルが印刷できます。以上のセットは半永久的に使用が可能です。

・甲虫専用台紙(新製品) ハートカード、C227 純白極厚紙及びもう少し厚手の祝16号の2種類があり、仕様はいずれも同一です。 1枚につき80円

ハガキ大の純白厚手カード紙から、双柱野の下2耗に表罫印刷の15耗巾3枚、13耗巾7枚が裁断でき、1裁断片から5耗巾では四角か三角台紙が20片とれます。5耗巾では台紙1枚から200頭分の台紙がとれる勘定です。ご希望によってハガキ大を10枚に切断します。

・名札差(標本箱名箋金具) アルミニウム製、外寸法 2.5 × 5.0 cm、4 つ穴、窓内寸法 1.5 × 3.5 cm、真鍮釘 4 本つき

上記より大形・小形も入手可能です。ご照会下されば用達いたします。

上記 4 品の価格はいずれも送料別です。

————— ドイツ型標本箱を共同で購入しませんか —————

ご希望がございましたら 〒386 上田市材木町 1-10-13

長野県上田市東小学校 輿水太仲氏までお問合せ下さい

昭和 48 年暮の石油危機に端を発した物価の異常値上りは昆虫用具も例外でなく、その後安定したものの高価格となり昆虫の採集・研究もやりにくくなりました。特に必需の標本箱は堅木材・桐材・ガラス板等の値上りと人件費の高騰で異常な価格の上昇を続けています。上田市の輿水太仲氏より電話がかかってきました。それは上田市内で東京都内の用具店で販売されている標本箱と同材質・同寸法の標本箱が製作できるが 1 ロット 100 箱単位なので、有志を募って共同で購入したらどうだろうかとお誘いでした。少しく送付に問題が残りますが仲々結構な話だと思います。昭和 50 年の春以降は本年以上の値上りが必至ですから自己防衛の意味からも、ご協力下さることを願います。

品 名：ドイツ型標本箱

仕 様：カツラ 1 cm 厚材使用、高級薄コゲ茶透明ウルシ仕上、ガラス蓋、4 mm 厚コルク板敷

寸 法：外寸 51 × 42 × 6 cm

価 格：1 箱につき 3,000 円

送 料：実費精算させていただきます。上田市→大阪府下送り 2 箱で 1,000 円以内と思えます。個数がまとまれば 1 箱あたりは割安となります。取りあえず、1 箱 500 円とご見当下さい。

申 込 日：昭和 50 年 2 月末日とします。期日までに 1 ロット数になりますと、第 1 回の注文をし、以後の依頼は第 2 回の発注に組入れます。

その他：大阪府・京都府・兵庫県・奈良県・和歌山県のご希望者は後藤宛一括送付されます故、送料は非常に低価になります。

“昆虫学評論”バックナンバー価格表

当会のバックナンバーの価格は下記のとおりです。なお、各巻の1号または2号の分冊売りはいたしません。

第1～4巻	(分冊売りはいたしません。又第2巻第1～5号は欠号です)	全部で5000円
第5巻	(第2号は欠号です)	5000円
第6～10巻	各巻につき1,000円	全部では5,000円
第11～15巻	“ ”	“ 5,000円
第16～20巻	“ ”	“ 5,000円
第21～25巻	各巻につき1,500円	“ 7,500円
第26～	各巻につき2,000円	

総目録：第1～10巻、第11～15巻、第16～20巻、第21～25巻をそれぞれまとめて購入される場合は、その当該目録は無料で差しあげます。送料はすべて学会で負担しますから無料です。

——— 昆虫学評論の第28巻会費は2,000円です ———

第27巻の会費を1500円に値上げさせていただきましたが、“あとがき”に記しましたように止むなく第28巻の会費を2000円とします。なにとぞ諸般の事情をご了解の上なるべく早い機会に第28巻会費をご納入下さい。

——— 振替貯金口座 大阪39672 日本甲虫学会あてお振込下さい ———

——— あ と が き ———

昭和48年の暮は石油危機によって電力がカットされたり灯油の不足で寒い年末できびしい新春を迎えられたことと思います。昭和49年もあと僅かですぎ去ろうとしています。石油問題は高値ながら安定していますが、1年も続いているきびしい金融引締下でフトコロの淋しい年末です。先刻の幹事会で会費云々について種々論議されましたが印刷費の高騰に加え、郵便料金の大巾値上げが予測されますので止むを得ず値上げに踏切り12月15日の昭和49年度総会で承認を受けました。“昆虫学評論”をはじめとして学術的な出版物の発行維持は、余程の資力があるか援助がなければ存続はむつかしいようです。今后共会員諸賢の今一層のご支援と新規会員のご紹介を切に希うものです。昭和50年の輝しい新春を迎えられますよう祈ります。(510)